

北方亞細亞に於ける遊牧民の社會的生活

遊牧民の社會的生活といふことは割合に注意せられずに過ぎて居るやうに思ふから、簡略にその一部分の状態を書いて見る。但しこゝではその状態が昔も今もあまり變らぬものであるといふことを述べるのが主である。

遊牧民はその畜類を養ふ爲に土地を要することは言ふ迄もない。ところで其の土地が畜類の生育に適當なる條件を具有すれば、畜類は繁殖するが、然らざれば減少して仕舞ふ。茲に於てか漸次彼等所有の畜産に不平均が生じ、多數にこれを所有して居るものは少數の所有者よりも多くの土地を有せねばならぬ事になる。また畜類はその繁殖の爲には、夏冬の季節に各々適當な條件を必要とするから、此の爲にその所有者は夏の牧地と冬の牧地とを變へねばならぬ。然るに此等の牧地は時には數里若しくは數十里も離れて居ることもあるから、遊牧民は季節に従つて廣い土地を彼方此方と移らねばならず、またその間にも畜類を盗まれないやうに、始終自衛の方法を講ずる必要がある。しかしかゝることは到底單獨では爲し能はぬことであるから、個々の家族は大なり小なり確かりと結びついた社會的集團に成つて、共同作業を營み、内部の平靜を保ち、外部の侵略に備へねばならぬことになる。露西亞のラドロフ博士は曾てトルコ族中のキルギス種族の社會的生活を長い間觀察して、その有様を記述したことがあり、ま